



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月9日  
東

上場会社名 倉庫精練株式会社 上場取引所  
 コード番号 3578 URL http://WWW.soko.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)中前 和宏  
 問合せ先責任者 (役職名)総務課長 (氏名)上田 紀昭 (TEL)076-249-3131  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	2,958	20.0	△123	—	169	—	153	—
29年3月期第3四半期	2,466	△2.1	△210	—	△336	—	△347	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 32百万円(—%) 29年3月期第3四半期 △591百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	21.62	—
29年3月期第3四半期	△48.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	4,463	1,322	29.6
29年3月期	4,537	1,299	27.3

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,322百万円 29年3月期 1,242百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	3,600	8.6	△220	—	△90	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	7,140,078株	29年3月期	7,140,078株
② 期末自己株式数	17,936株	29年3月期	20,353株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	7,122,042株	29年3月期3Q	7,120,831株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境に改善が見られたものの、個人消費の回復の遅れが見られました。世界経済は、欧米の不安定な政情やアジア・中東で顕在化した地政学リスクの高まりなどにより、先行きは依然不透明な状況が続いております。

当繊維業界におきましても、国内外の大きな事業環境の変化、輸入原材料の高止まり、企業間競争の激化により、依然として厳しい環境にあります。

このような状況のもと、当社グループは、親会社である丸井織物株式会社と連携して、生産効率・収益の改善、得意とする素材・加工の開発・販売を強力に推進しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は29億58百万円(前年同四半期比20.0%増)、経常利益は為替差益2億72百万円などにより1億69百万円(前年同四半期は3億36百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億53百万円(前年同四半期は3億47百万円の損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①繊維事業

衣料用途においては、得意とする複合商品、高次加工商品は堅調に推移しました。資材用途においては、車輛資材関連、高機能繊維商品関連は堅調に推移しましたが、メキシコ連結子会社の品質対応による経費が増加しました。

以上の結果、繊維事業全体における売上高は26億20百万円(前年同四半期比19.7%増)、営業損失は1億60百万円(前年同四半期は2億43百万円の損失)となりました。

#### ②機械製造販売業

機械製造販売業における売上高は1億64百万円(前年同四半期比67.9%増)、営業利益は30百万円(前年同四半期比67.6%増)となりました。

#### ③内装業

内装業における売上高は1億73百万円(前年同四半期比3.4%増)、営業損失は0百万円(前年同四半期は6百万円の利益)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ73百万円減少し、44億63百万円となりました。主な要因は、仕掛品の減少51百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ95百万円減少し、31億41百万円となりました。主な要因は、短期借入金が13億37百万円増加したものの、1年内返済予定の長期借入金が1億86百万円、長期借入金が13億7百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ22百万円増加し、13億22百万円となりました。主な要因は、為替勘定調整勘定が1億49百万円減少したものの、利益剰余金が1億53百万円、資本剰余金が45百万円増加したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、本日公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,109,712	994,455
受取手形及び売掛金	836,301	954,734
商品及び製品	153,325	131,609
仕掛品	244,158	192,773
原材料及び貯蔵品	156,350	158,108
繰延税金資産	2,312	2,376
その他	116,817	93,137
貸倒引当金	△1,818	△735
流動資産合計	2,617,159	2,526,460
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	943,543	940,506
機械装置及び運搬具(純額)	517,007	525,473
その他(純額)	229,438	236,773
有形固定資産合計	1,689,989	1,702,752
無形固定資産	5,601	4,140
投資その他の資産		
投資有価証券	182,112	181,021
その他	45,305	52,209
貸倒引当金	△2,865	△2,865
投資その他の資産合計	224,553	230,366
固定資産合計	1,920,143	1,937,260
資産合計	4,537,302	4,463,720

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	675,623	696,299
短期借入金	—	1,337,000
1年内返済予定の長期借入金	255,829	69,600
未払法人税等	7,918	16,154
賞与引当金	19,805	10,520
その他	169,116	222,514
流動負債合計	1,128,294	2,352,089
固定負債		
長期借入金	1,446,058	138,900
役員退職慰労引当金	12,782	16,695
退職給付に係る負債	477,886	462,854
負ののれん	3,438	2,546
資産除去債務	95,449	96,410
その他	73,480	71,900
固定負債合計	2,109,096	789,306
負債合計	3,237,390	3,141,395
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	506,000	506,000
資本剰余金	130,686	176,681
利益剰余金	368,660	522,637
自己株式	△2,778	△2,891
株主資本合計	1,002,568	1,202,427
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,218	23,493
為替換算調整勘定	278,337	128,424
退職給付に係る調整累計額	△57,226	△32,020
その他の包括利益累計額合計	240,330	119,897
非支配株主持分	57,013	0
純資産合計	1,299,912	1,322,324
負債純資産合計	4,537,302	4,463,720

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	2,466,532	2,958,632
売上原価	2,351,011	2,746,388
売上総利益	115,520	212,244
販売費及び一般管理費	325,911	335,731
営業損失(△)	△210,390	△123,487
営業外収益		
受取利息	13,765	65
受取配当金	2,421	2,119
受取賃貸料	63,697	65,585
持分法による投資利益	687	-
為替差益	-	272,321
その他	18,358	20,642
営業外収益合計	98,930	360,735
営業外費用		
支払利息	23,808	24,950
賃貸費用	16,990	15,205
持分法による投資損失	-	10,127
為替差損	177,416	-
その他	6,677	17,431
営業外費用合計	224,892	67,715
経常利益又は経常損失(△)	△336,352	169,532
特別利益		
固定資産売却益	-	177
特別利益合計	-	177
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△336,352	169,709
法人税等	11,611	15,009
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△347,963	154,699
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△37	723
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△347,926	153,976

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△347,963	154,699
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,892	4,217
退職給付に係る調整額	7,333	25,206
為替換算調整勘定	△256,592	△149,913
その他の包括利益合計	△243,365	△120,489
四半期包括利益	△591,329	34,210
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△591,295	33,544
非支配株主に係る四半期包括利益	△34	666

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、法定実効税率を使用して計算した金額を計上しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは前連結会計年度において前々連結会計年度に引続き継続して経常損失を計上し、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、連結財務諸表提出会社である当社は当該状況を解消すべく、以下の対応策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないと判断しております。

当社は、平成29年3月27日付で丸井織物株式会社と資本業務提携契約を締結しました。丸井織物(株)が平成29年3月28日から実施しておりました当社株式に対する公開買付けの結果、平成29年5月24日をもって総議決権の過半数を保有し、当社の親会社および筆頭株主になりました。

本契約の合意内容にもあるとおり、当社の収益力と企業価値の最大化のため、経営資源を国内事業に集中してまいります。なお、海外メキシコ事業については、今期中撤退を目標に進行しております。

国内事業では、両社が得意とする、合繊織物分野での織から染までの一貫生産体制により、商品開発や製品販売を推進しております。

また、当社が得意とする化繊織物、複合織物およびニットのストレッチ素材、起毛加工、ラミネートなどの独自技術と人材を活かした当社の再生に向けて、丸井織物株式会社とともに、事業戦略・収益構造改革・組織戦略の3つのプロジェクトを立ち上げ、協議・検討を行い、平成29年10月16日に中期経営方針「We Go 130」を公表いたしました。

当社グループは「We Go 130」(2018年度～2020年度)に掲げている、2020年度に売上高4,458百万円、営業利益130百万円、経常利益175百万円の目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでおります。